



企画 笠谷 美保(千葉労災病院看護部)
渡壁 晃子(彩都友誼会病院看護部)

連載にあたって

2019年に始まった、がん看護専門看護師(以下 OCNS)によるこのリレーエッセイも、5期目を迎えることになりました。この企画が始まった発端は、若手の OCNS の活動を言語化し、お互いの活動を知る機会を得ることであったそうです。この2年あまり、新型コロナウイルス感染症が流行するようになり、これまで通りのがん看護実践が思うように行えなかったり、研究会での活動や学会参加がむずかしかったりしました。また、自らのアイデンティティを見失いがちになったときにはほかの OCNS に相談する機会に恵まれず、手探りで乗り切ったということもあったのではないのでしょうか。

専門看護師制度の開始から27年目を迎え、現在登録されている OCNS 数は980名になりました(2022年12月2日時点)。OCNS をとりまくがん医療や看護実践に求められることも随分と変化しました。一例を挙げると、免疫チェックポイント阻害薬やがんゲノム医療の登場、緩和ケアにおける対象疾患の拡大です。このような変化の中で、OCNS の役割、期待の範囲、活躍の場は多様化しています。同じ組織で働き続けている場合は、これまでの CNS 実践主体の活動形態から、管理職へのキャリアアップを求められるようになることも多いのではないかと思います。一方で、自身のワークライフバランスとの兼ね合い、子育てや介護問題など家庭内の役割変化があった場合、これまで通りの働き方がむずかしくなることもあります。

そこで、今年は資格取得後のキャリア年数が異なる、12人の OCNS の方に歩んできた「回想記」を書いていただくことにしました。OCNS の皆様には成長につながった『しくじり体験』と『モチベーションの維持につながったエピソード』をご紹介いただいています。キラキラした成功ストーリーから得られるものも多いのですが、時には眩しすぎて自分の影が濃く感じてしまうこともあります。そこで、このリレーエッセイでは、自分だけではなく、みんな悩みながらがんばっているのだな、と感じられるような体験談をご紹介いただきたいと思います。

社会ニーズや時代の変化に対応しながら、OCNS としてキャリア開発を続けている皆さんの通ってきた道を知ることで、若手の OCNS の皆さんがこれからどのようなキャリアを重ねていくか考える一助となり、また OCNS 以外の看護職の方々にも自分たちのキャリアと照らし合わせて考えられるような連載となることを願っています。